

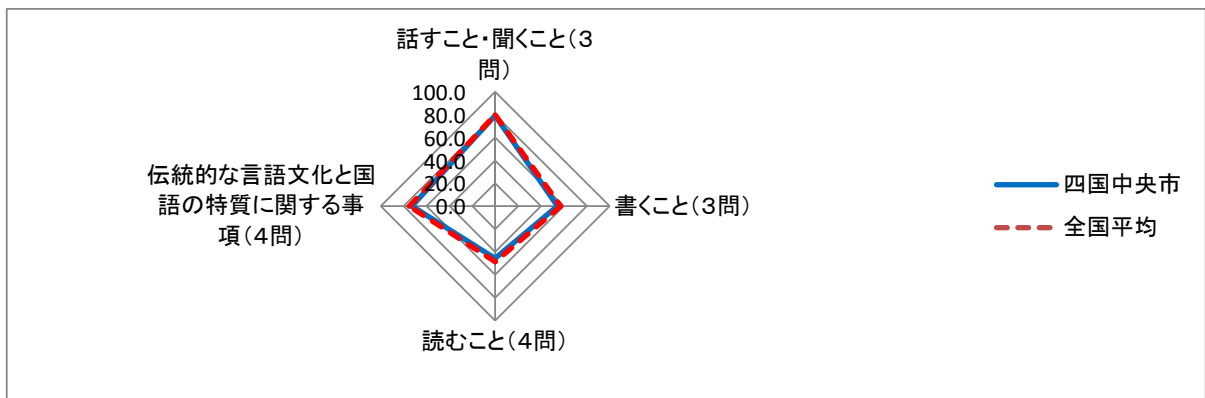
令和3年度全国学力学習状況調査の結果について四国中央市の中学生の状況についてお知らせします。

1 学力の状況

レーダーチャートは、各領域における正答率を示しています。項目の後の（）内の数字は、対象問題数を表しています。問題によっては、複数の項目に含まれる場合があります。

国語科では、令和元年度と比べてやや低下し、全国平均をやや下回りました。数学は令和元年度よりやや上昇しましたが、全国平均に比べてやや下回っています。国数ともに課題があるようです。それぞれの分析は以下の通りです。

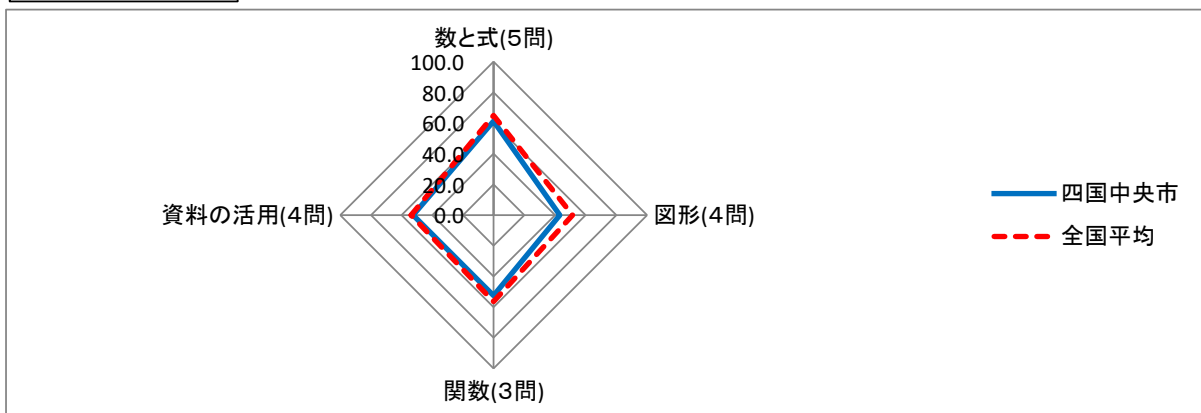
国 語



【国語分析】

「話すこと・聞くこと」についてはほぼ全国平均でした。「話合いの話題や方法を捉える」「質問の意図を捉える」問題は全国平均を上回り、伝えたい内容を、理由を示しながら書く力が付いてきています。「読むこと」については、特に文章の意味をしっかりと読み取ることに課題がありました。授業の中で、文章全体からその意味を読み取る活動を多く取り入れることや、読書量を増やす活動を今後も継続していきます。また、GIGAスクール構想で配備された1人1台端末を有効活用し、「個別最適化された学び」を実現し、基礎的・基本的な学力定着への取組を充実させていきます。

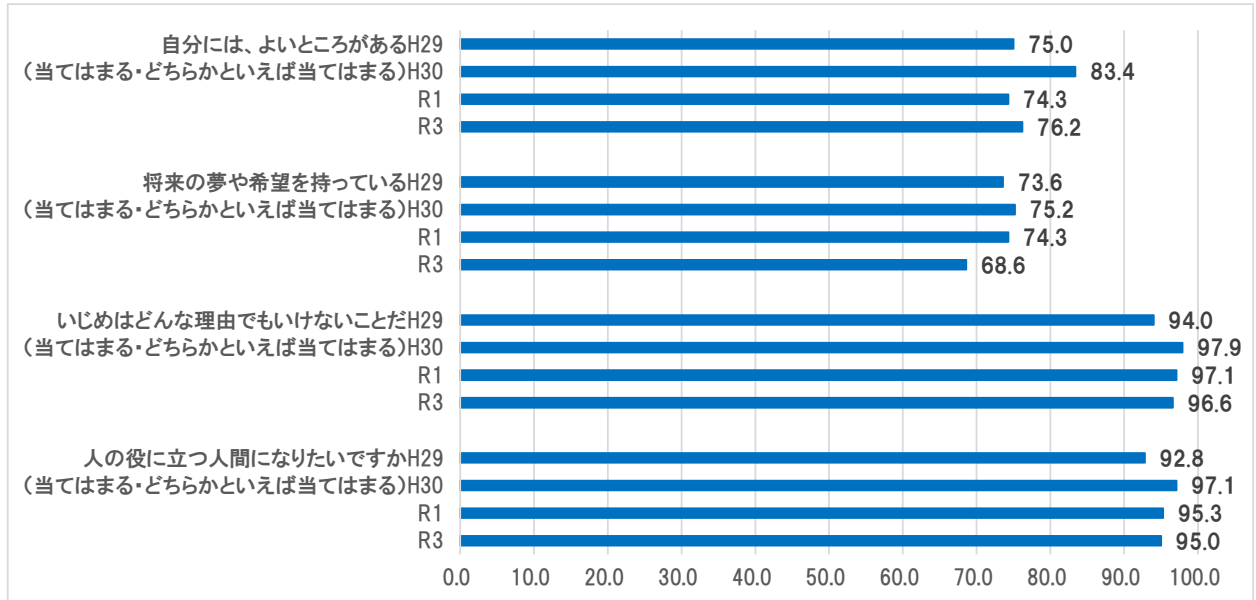
数 学



【数学分析】

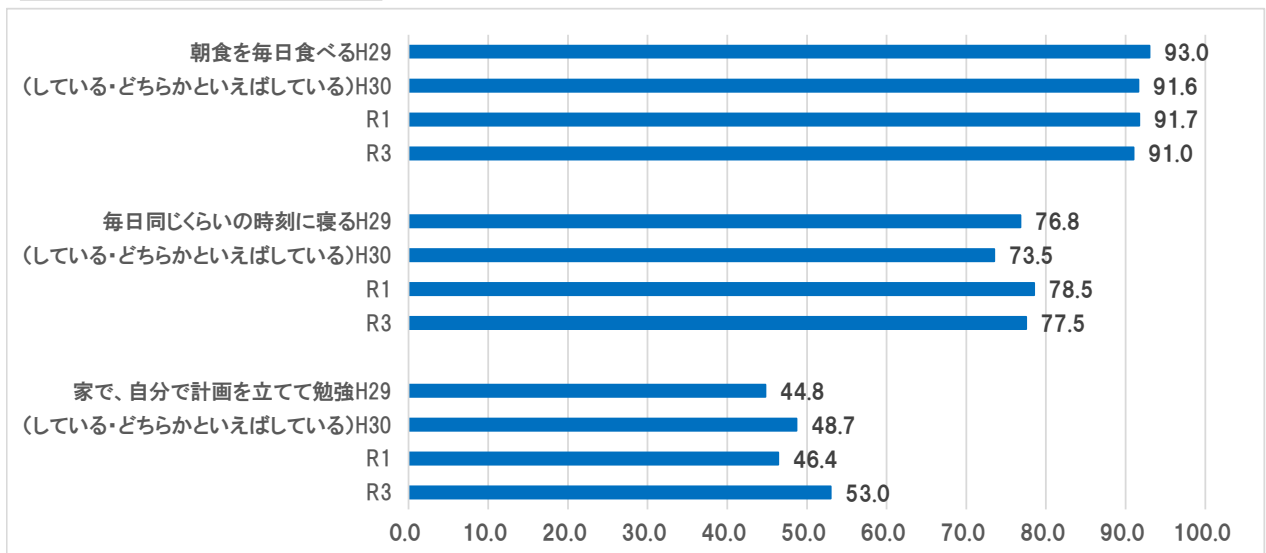
「資料の活用」は、よい結果でした。特に、「与えられたデータから中央値を求める」問題については高い正答率でした。「数と式」「図形」の領域に課題がありました。特に目的に応じて式を変形したり、その式が成り立つ理由を説明する力が十分ではありませんでした。「図形」では、図形の証明問題に課題がありました。1人1台端末やドリル型学習用ソフト等も有効活用し、反復練習を行い基礎基本の定着を図ることで、全体的な底上げを図るとともに、授業の中で、答えがそうな理由を説明したり、自分の考えを式や言葉で表現する機会を増やしたりしていきます。

2 心の状況



※質問数が減って、令和元年度まで掲載していた「学校の決まりを守っている」の項目は無くなりましたので「人の役に立つ人間になりたいですか」に変更しています。

3 生活習慣の状況



【分析】

心の状況については、全国平均と比して例年通り良好な状態です。「自分には良いところがある」の自己肯定感に関する質問では、全国平均とほぼ同じ数値ではありますが、お互いの良い所を認め合う活動を多く取り入れるなどした結果、令和元年度より改善が見られます。しかし、「将来の夢や希望を持っている」は令和元年度より5.7ポイント減少しています。全国平均値も同じ傾向にあり、コロナ禍における子どもへの影響が伺えます。十分な感染対策を行い安心・安全な教育環境の実現に努めてまいります。

生活習慣の状況については、ご家庭の協力もあり、規則的な生活習慣が向上してきているようです。特に「自分で計画を立てて勉強する」が全国平均を下回っているものの、改善が見られます。コロナ禍で家で過ごす時間が増えたことと関係があるように思われますが、更に改善を図るために、自律的な生活ができる自立心を養うとともに、将来への夢や目標を育み目標に向かって努力できるように、職場体験学習等も生かしながら、ご家庭とも連携して取り組んでいきます。